

当院におけるESDについて

2009年8月から当院にてESDを導入しています。2010年5月までに、8症例（胃癌：7例、胃腺腫：1例）を施行しました。

治療成績は、平均施行時間138.6分、完全一括切除率85.7%（7/8例）、平均入院期間9.1日です。

当院における胃癌症例（7例）

病変	部位	時間	偶発症
1 II a,m,tub1,16mm	前庭部大弯	150分	なし
2 II a,sml,tub1,20mm	前庭部小弯	120分	なし
3 II c,m,tub1,12mm	前庭部大弯	90分	なし
4 II c,m,tub1,5mm	前庭部大弯	180分	なし
5 II c,m,tub1,28mm	体下部小弯	150分	なし
6 II c,m,por,14mm	体中部大弯	180分	穿孔
7 II a,m,tub1,20mm	前庭部小弯	100分	なし

当院におけるESDの偶発症

ESDの偶発症は、後出血、術中穿孔、遅発穿孔などです。ESD導入後、1例に術中穿孔しましたが、いずれもクリッピングで対処し、3日程度の保存的治療（絶飲食）で軽快しました。

以上、当院におけるESD導入について記載させていただきました。症例数を重ねて技向上に努めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

参考文献
胃癌治療ガイドライン 2004年4月改訂 第2版

こどもたちのこころの準備をサポート
小児科プレパレーション

■ 小児科のプレパレーションについてご説明します。
遊びを通したプレパレーションの活動は、
こどもたちに検査や処置前の「こころの準備」を提供します。

耳原総合病院 小児科
嶋田 聡
しまだ さとし



入院中の患児が描いた嶋田医師

病気で入院中の子どもたちは考えます。「どうして針をさすの?」「どうしてごはんを食べることができないの?」

このように、こどもたちも自分の病気や検査について知りたがっています。私たちは可能な限り、これらに答えなければいけません。今回お伝えするプレパレーションは、こどもたちのつらい検査に対する疑問や不安を軽減する手段のひとつかもしれません。

プレパレーションとは、「準備」という英単語【preparation】に由来します。こどもの発達段階にあわせて、遊びを通して、検査の意義や検査の手順の説明をおこなうことです。検査や処置前で不安なこどもたちの「こころの準備」をサポートします。採血、点滴など痛みを伴う検査は、入院中に必須になることが多いです。しかし前もって検査の流れをこどもたちの発達段階にあわせて説明し、理解してもらおうと、不必要な抑制（動かないように抑えること）が避けられるかもしれません。

またレントゲン撮影やCT検査などの痛みを伴わないような検査であっても、こどもたちにとってはじめての体験は、不安な気持ちになりがちです。急にCT検査室などに連れていかれると、パニックになるためにうまく検査ができません。その結果、検査中動かないように、鎮静（薬を使って眠らせること）を行わなければいけないこともあります。しかし前もって、CT検査室の写真やおもちゃ

を使って、検査の様子をこどもたちに知らせておくと、鎮静を必要とすることなく、おとなし



プレイルーム

く検査に協力してくれるようになります。もちろんすべて抑制や鎮静なしに検査ができるわけではありませんが、遊びを利用した事前の説明や準備により、鎮静の頻度が減ることを期待します。

当院小児科では、病棟保育士を中心として、医師、看護師を含め病棟スタッフ全体で、これらのプレパレーションに取り組むように努力しています。病棟内には、レントゲンやエコー検査などの手順が伝わるポスターや、検査についてわかりやすく書かれた説明書などを用意しております。保護者だけでなく、こどもたちとの信頼関係を築くことができなければ、よりよい医療は行うことはできないと信じています。



こどもたちを勇気づけるぬいぐるみ「くまお」

また当院のプレパレーションにおいて、クマの「くまお」のことを忘れてはいけません。病棟保育士とともにやってきたピンクのクマのぬいぐるみ「くまお」は、当院小児科のプレパレーションにはなくてはならない存在です。「くまお」は普段はプレイルームに住んでいて、プレパレーションが必要なこどもたちがいれば、病棟保育士とともに、採血などの処置をこどもたちに説明して、勇気づけてくれます。

ボランティア団体で作っていただいたキワニスドールも当院のプレパレーションに取り入れています。キワニスドールとは人の形をした綿が詰められた真っ白な、のっぺらぼうの人形です。身長40cm、体重50gのこのふわふわの小さな人形が、入院中のこどもたちの気持ち

を反映するキャンパスとなります。こどもたちは自由にキワニスドールに自分の気持ちを描いて、入院中のつらい気持ち、不安な思いを人形が共有してくれます。そしてその人形は世界で自分だけの人形になり、つらいときもいっしょにいてくれる存在となります。

大人と違って、こどもたちは、痛い検査や怖い検査を我慢できないことが多いです。そのために遊びのツールを利用したプレパレーションを通して、こどもたちの発達にあわせて検査の情報を前もって提供することにより、こどもたちが「こころの準備」ができるようにサポートします。

病棟スタッフや、こどもたちと同じパジャマを着た「くまお」が、こどもたちにとってのつらい検査を、いっしょにがんばろうと応援してくれるでしょう。そして入院付き添いのお父さん、お母さんは、つらい検査に耐えてがんばったこどもたちのことをいっぱい褒めてあげてくださいね。

ご自宅とは異なる環境で、なにかと不自由な思いをする入院生活ですが、すこしでも入院中のつらい気持ちをやわらげることができるように、私たちは努力します。



プレイルーム